

令和7年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	桑名市			代表者名	伊藤 徳宇
担当者部署(属性)	情シス担当	担当者部署名	市長直轄組織 スマートシティ推進課	連絡先電話番号	0594-24-1338
担当者役職	主査	担当者氏名	岩永 純一	連絡先E-mail	
住所	5118601 三重県桑名市中央町二丁目37番地				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名		連絡先部署			
担当者氏名		連絡先電話番号		連絡先E-mail	

1-3. 支援を求める内容

支援方法	職員向け啓発・研修（単独）	事業名	スマートシティ共創ビジョン
概要	スマートシティを含む地域DXについて		
支援を求める分野	EBPM（エビデンスに基づく政策立案） AI活用 医療・介護・健康 スマートシティ		

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1. 対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	無				
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和7年7月24日	講演(実地)	13時00分	16時00分	
				活動時間（分）	180
2-2. 派遣場所	会場名	桑名市役所		最寄駅	桑名駅
	所在地	三重県桑名市中央町二丁目37番地		最寄駅からの交通手段	徒歩7分

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	鈴木 昌幸
評価	大変良い

上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	人口減少社会における都市再生やスマートシティの実現に向けた先進的な取り組みについて、具体的かつ岡崎市での実例に基づき丁寧に解説していただきました。特に、3D都市モデルの活用による合意形成の促進や、人流データの活用を通じた観光・イベント運営の効率化に関する説明は説得力があり、実務上の参考になる内容でした。また、データ分析を基盤としたシェアサイクルの収益向上や商店街活性化の事例も具体性が高く、デジタル技術と地域課題解決の親和性を実感できました。鈴木氏の分かりやすい講義と豊富な事例の提示は参加者の理解を深める助けとなりましたし、専門性の高い内容をしっかりと伝えてくださった点で、大変有意義な機会となりました。
アドバイザーへの要望事項	このたびは多くの具体的事例を通じ、先進的な取り組みに関する貴重な知見を共有していただき、感謝申し上げます。今後も折に触れて情報交換等、ご助言を賜れますと幸いです。

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】		合計人数	20人
	属性	自治体職員	住民	企業・団体
	人数	20		その他(学生など)

4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	実証実験や実証後の検証についてさらに質を高め、今後は実装に向けてニーズの創出・サービスの選定・担い手の確保などを検討する必要があります。具体的には選定する実証エリアにおいてどのように実証実験への住民参画を促すか、またAIカメラ等で取得した人流データを如何に解析し政策展開に活かすか等、様々な課題があります。
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	本市が持つ多様な魅力を都市データや生活データなど様々な情報を用いた定量的な指標によって可視化し、市民ニーズに定量的なデータ分析を組み合わせることで、政策の精度と効果を高めたいと考えています。その上で、取得したまちのデータを公民・各分野を横断してつなげ、適切に利用・共創できる仕組みを構築するためのコツを把握し、住民サービス向上に向けた取り組みを加速させていきたいです。

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	スマートシティ推進に係る多くの実装事例を有する岡崎市の事業展開、地域情報化の舞台裏について、取り組みのきっかけとなった背景や横展開でき得る各種ツール等の効果的な活用方法について、事例紹介と併せてディスカッション・アドバイスをいただきました。	
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	○リアルタイムの人流データ活用 混雑状況をデジタルサイネージで表示し迂回を促すことで、利用者の行動変容と心理的負担の軽減を図る手法を指南いただきました。 ○計画・構想段階に 3D都市モデルを活用 土地利用のシミュレーション(建物の建設、日照の変化など)を行い、関係者間(地権者・周辺住民・許認可権者・出店意向の事業者 etc)の合意形成を円滑化するヒントを得ました。 ○シェアサイクルデータ分析 利用者の多い時間帯や場所を特定。朝夕は通勤通学者、日中は観光客(10時と14時が観光利用のピーク)といった需要に合わせ、ポート設置個所の見直しを繰返し、バッテリー交換や自転車の配置を効率化することで、収益を向上させた取り組みについて、事業を軌道に乗せるまでの舞台裏を踏まえ事例共有いただきました。 ○「スマートデータインフラ」としての考え方 データの蓄積は橋梁や道路と同じインフラだと思って中長期投資の価値がある。特に土地が動き始める息吹のあるようなエリアには、開発を通じた土地の価値向上の可能性があり、都市経営の視点(投資と回収)を意識する必要がある旨、具体的に説明いただきました。例)不動産開発促進と固定資産税増の天秤 上記は取り上げていただいたトピックの抜粋であり、この他にも多くの知見を共有いただきましたので、これらを踏まえて本市の事業に活かして参ります。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑤組織業務改善ができた
	この勉強会により、データ活用を基盤とした実装社会に向けた政策展開や、効率的なサービス提供といった、目指す姿を共有する契機となりました。	
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	特にございません。	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。)アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 今回の勉強会は主に管理職向けに実施したこともあり受講後アンケート等は取りませんでした。講師の丁寧な説明と、自治体職員として受講者の目線に寄り添った様々な質疑回答等は大変好評でありました。	
4-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	①予算は確保済みであり、年度内に推進する
	引き続きデジタル技術の活用精度を高め、市民の利便性が向上する取り組みを推進します。	
4-4. 事業の最終的な目指す姿	市民ニーズに定量的なデータ分析を組み合わせることで、政策の精度と効果を高め、取得したまちのデータを公民・各分野を横断してつなげ、適切に利用・共創できる仕組みを構築することで、より住みやすい“まち”を実現していきます。	
5.報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可		
掲載許可	☐ 掲載可	
なおくその他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください		
6. 地域情報化アドバイザー支援の様子		
今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG等)」を数枚程度貼り付けて下さい。		
		